

第五節 仏像墨書他

総説

その他の金石文に準ずる古記録は、棟札・絵馬・扁額や諸種の祭具などがあるが、これらの神仏具については別に章や節をもうけ記載したので、ここでは十王佛の台座に記されている記録を中心に、仁王像関係の記録と奉札を取り上げて収録した。

十王堂は別名、閻魔堂とも呼ばれ十王佛（本地は菩薩）を安置し、鎌倉時代以降盛んに信仰されてきた。十王信仰は、死者が冥府に入り初七日から百カ日・一周年・三周年と沙婆しゃはでしてきた罪の裁断を十の王から受け、これによって来世の生所が定まるといふものである。尚、室町時代からこれに三佛が加わり十三佛となった。

その他金石文一覧

種	類	材質	所	在	場	所
十王佛	佛	檜	法海寺	八幡字平井一九		
十王佛	佛	檜	光明寺	八幡字中島三三		
十王佛	佛	檜	龍雲院	新知字会下一四		
仁王像奉札	札	檜	随応寺	金沢字郷中一九九		
仁王像修復の記録	札	檜	法海寺	八幡字平井一九		
尾張藩奉札	札	檜	栖光院	八幡字観音脇二五		
マンボ完成の奉札	札	檜	諏訪神社	佐布里字森下四一		



法海寺 十王佛

(一) 法海寺十王佛

法海寺十王佛の台座には、慶長十二年に大橋氏が建立した記録がある。その後、大橋氏の子孫が寛保三年と寛政四年に、母の菩提を弔うために修復した記録が残されている。

地藏菩薩



妙玖禪
尼大善
提故也
開眼道
師權大僧
都大阿闍
梨鎮秀
法印云
慶長十二年
丙午持正八
月廿一日施
主敬白□
□自然



秦廣王 本地 不動明王 (初七日)



為淨泉禪門
為秀要

初江王 本地 釈迦如来 (二七月)



奉再興十王尊躰村中奉加 開眼道師

大乘院現任傳燈大阿闍梨賢者法印觀晃

尾州智多郡寺本郷平井邑粟王山法海寺中

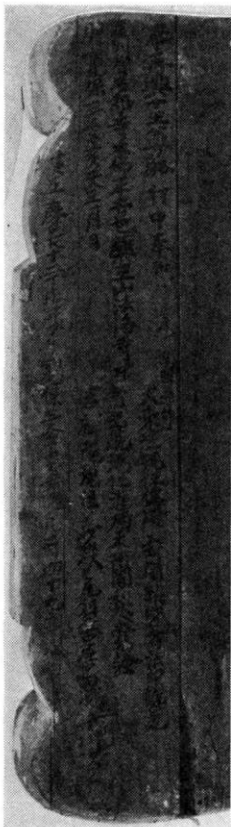
時寛保三癸亥天三月日 常光院現任灌頂大阿闍梨覺詮

小細師

吉祥院現任義瑛尾州名古屋戸田道千川次平

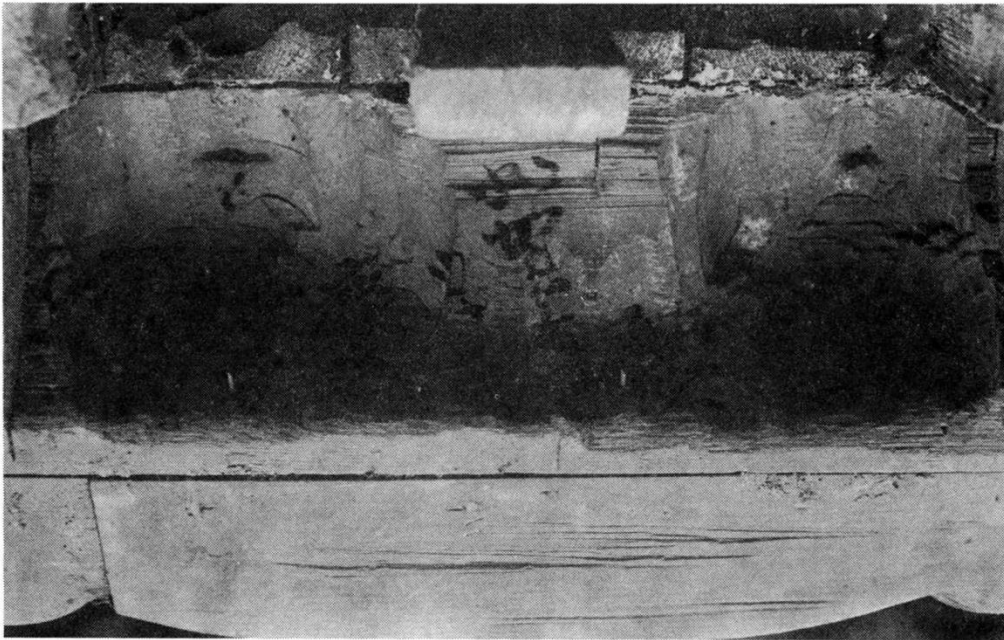
建立慶長十二丁未年ヨリ寛保三癸亥年迄□百四十九年及

為おちや八





宋帝ミコノミコ王 本地
文珠菩薩 (三七日)



敬白 七月 十二年 慶長 妙觀 祐音



五ご官かん王
本地 普賢菩薩（四七日）



為
□ □
普賢
□ □



閻魔王
本地 地藏菩薩 (五七日)



妙安禪
心尼
文祿五年



変成王 本地 弥勒菩薩 (六七日)



施主大橋音吉

母聖吳放心智開大姉成等正覺ノタメ

大□菩薩

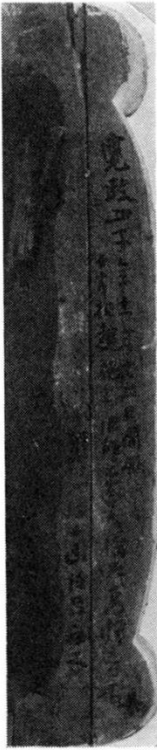
お満施主

慶長十二年

丁未七月

吉日

太山王 本地 薬師如来 (七七日)



寛政四子年十一月廿四日開眼
十方担越施主□師平井大橋庄右衛門梓音吉並
一山住呂細工



為妙祐

第5節 仏像墨書他



平等王^{びやうどう}
本地 観音菩薩 (百力日)



為之 為□□□



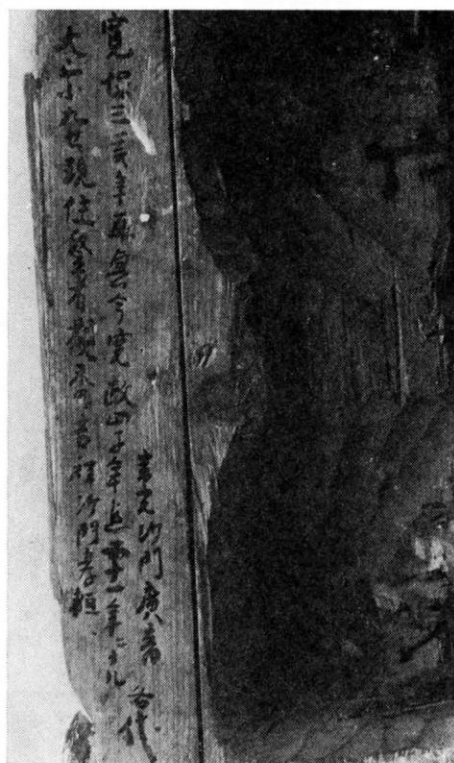
都^{とし}市^し王
本地 勢至菩薩（二周年）



おちや八
為妙見



五道轉輪王 本地 阿弥陀如来 (三周年)



①

常光沙門廣音

寛保三亥年再興今寛政四子年迄五十一年ニナル

各代

大条 九世現住賢者觀秀吉祥沙門孝桓

②

開眼道師

大乘院現住伝燈大阿闍梨堅者法印親見

年行事

常光院現住灌頂大阿闍梨覺詮

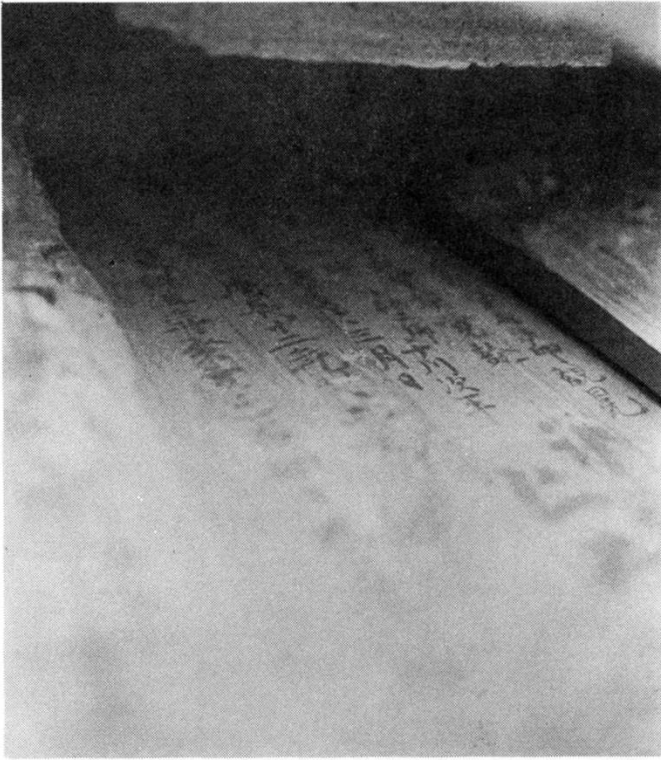
小細工師

吉祥院現住義瑛尾州名古屋戸田道千川次平

再興寛保三癸亥天三月日

建立慶長十二年丁未四月

寛保三年癸亥迄百四十九年成



③



寺本郷

千蔵施主

□法印親見

小細工師

千川次平

平井村

上次郎施主

□三月日

□

□三百四十九年

慶長十二年

丁未

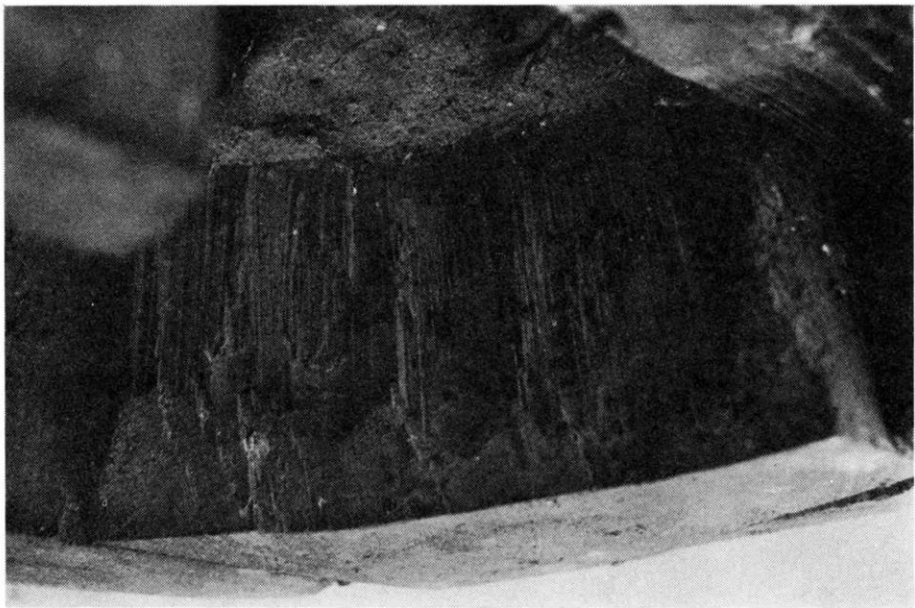
施主

敬白

第5節 仏像墨書他



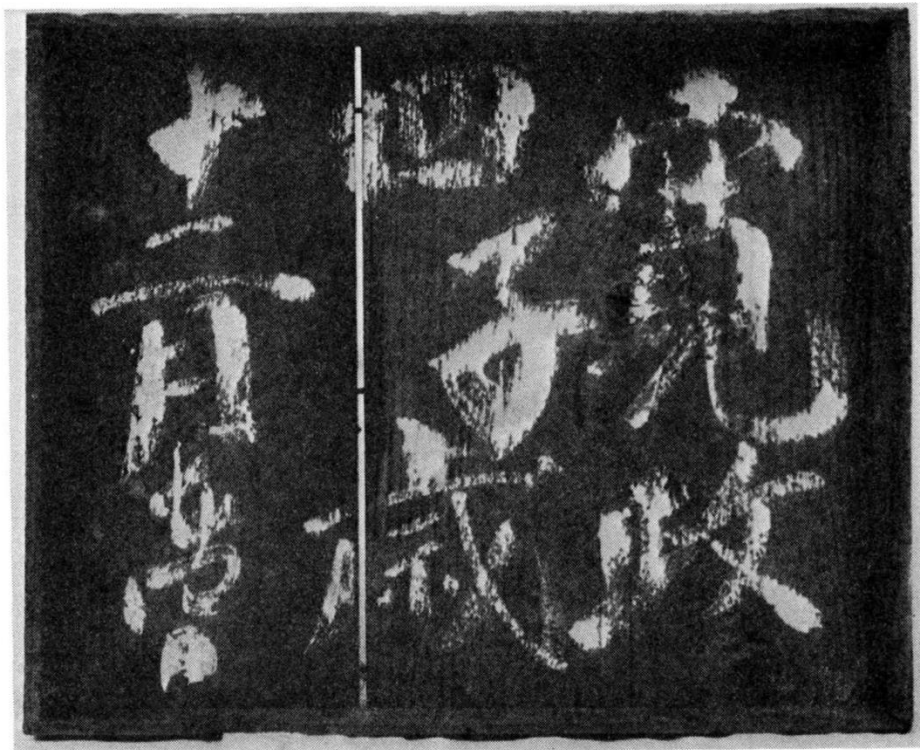
五道明官
ごどうみょうくわん



為妙安 □
為淨泉 □
□ □ □



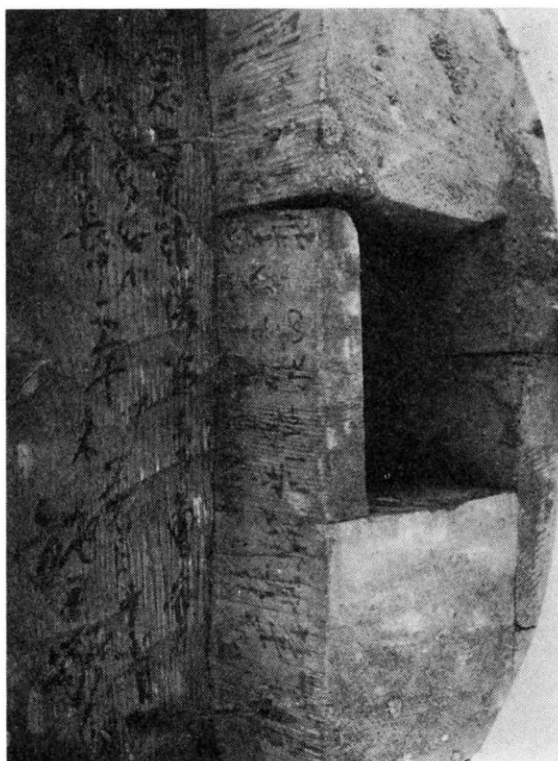
奪衣婆



寛政四子歳十二月廿四日



俱生神
くしょうじん



右志趣者諸隣
奉供養
干時慶長十二年丁未□月十七日
施主敬白